

ニットの商品企画機能の向上研究

今津千竹・石川泰子・内藤 融・初鹿広美

Study on Improving Techniques of Merchandize Planning
in Knitting IndustriesChitake IMAZU, Taiko ISHIKAWA,
Toru NAITO and Hiromi HATSUSIKA

要 約

県内ニット企業の商品企画開発機能を充実し、高付加価値の生産性と消費者ニーズの多様化・高級化に対応し得る事を目的に、今年度は各企業の実態について調査・分析した。その結果、見本作成に係る年間総点数は700点、修正見本は67%、1点当りの作成費用は41,000円強、同様に作成日数は約9日間、企画スタッフは2.8人等が掌握された。また、素材・配色・スタイル・編み地柄（編み組織）等の傾向分析が図れた。

1. はじめに

ニット商品に対する消費者ニーズは、多様化・個性化に加え高感度・高品質による高級化の傾向にある。また、ニット産業は欧州・アジア等の輸入商品との競合が益々激化しており、差別化商品としての生産期間の短サイクル化、ファッション化の必然性は高い。

現在の受注生産方式では、取引先であるニットアパレル・ファッション・メーカー（卸商）の見本指示書により、ファースト・サンプル作成（確認と修正あり）を経て展示会用カラー・アソート・サンプルの作成になる。このパターンを婦人ニット（県内生産額77.1%）の場合は、表1に示すように年間7回程度繰り返すことになる。

表1 見本作成シーズン・スケジュール

① 梅春	春夏物
② 春	
③ 初夏	
④ 盛夏	
⑤ 初秋	秋冬物
⑥ 秋	
⑦ 冬	

以上のサンプルを展示会に掛けても実需につな

がらない場合もあり、しかもサンプル作成費用は全てニット企業の負担であることから、経営を圧迫する場合が多い。そのため、一部の県内ニット企業においては、様々な新しい素材の用途開発や各種加工編み地によるオリジナル商品提案を行い、訪問販売等の独自の販売網で成果を上げている企業もある。

本研究は、こうしたニット企業内における見本作成の実態を調査し、将来に向けたオリジナル商品の企画開発機能の向上を支援するための編み地開発、型紙作成の効率化等を目標に素材・色・スタイル・編み地等の傾向調査を行った。

2. 調査内容

2-1 調査対象及び調査方法

調査対象は、県内ニット製造業者の中から製販業者とした。調査範囲の標本抽出は平成3年山梨県生産概況調査¹⁾（以下生産概況調査という）の生産額によって、4段階に層別し無作為に行った。その結果6億円以上の企業4社、4～6億円6社、2～4億円5社、2億円以下2社を抽出し、計17社の抽出率は29.3%である。なお調査方法は聞き取り法により、調査時点は平成3年11～12月に行った。

2-2 調査項目

調査項目は表2に基づき、次の記入要領に従って調査した。なお年間総点数は取引先の見本指示

書の点数と、オリジナル企画等による試作総点数とする。

表2 調査項目一覧表

見本作成	年間総点数	点	色 傾 向	来年の春夏	1. 3.
	年間生産(受注)点数	点		2. 4.	
	修正見本の割合	%			
	1点当りの作成費用	円		セーター カーディガン ボトム	
	作成日数	日		インの傾向	
見本作成 従事者	企画スタッフ数(兼務)	人		1.	
	全就業者数(経営者も含む)	人		2.	
	企画スタッフの割合	%		3.	
素材傾向 (ウエイト順に)	中心素材		編地の傾向 (ウエイト順に)	編機ゲージ	1. 2. 3.
	1.			柄 傾 向	1. 2. 3.
	2.			針 柄	1. 2. 3.
	3.		アパレル用 コンピュータ 機 器 名	1. コンピュータグラフィックスシステム	
	新素材			2. パターン・グレーディング・マーキングシステム	
	1.			3. 編み機専用システム	
	2.				
	3.				
	異素材				
	1.				
2.					
3.					
付 属 品	1.	2.			
	3.	4.			
			オリジナル商	年間企画点数	点
			品の企画開発	年間生産(受注)枚数	枚
ブ ラ ン ド	1.		販売先金額 比 率	アパレル(問屋)	%
	2.			商社	%
	3.			直接販売	%
	4.			通信販売	%
	5.				
色 傾 向 (ウエイト順に)	グラントの色数	~ 色	商品企画の 将 来 展 望 (該当に○印)	1. 現状維持, 柔軟な態勢で望む.	
	今年の秋冬	1. 2. 3.		2. 当座は現状維持であっても, 提案 型の商品企画を目指す.	
	今年の春夏	1. 2. 3.		3. オリジナル企画商品の直販を目指 す.	
				4. 自社ブランドのアパレルを目指す.	

3. 調査結果及び考察

3-1 見本作成

下記(1)~(4)の項目について、1社当りの平均値を次に示す。

(1) 見本作成点数と費用について

A 年間総点数	698点
B 年間生産(受注)点数	544点
C 修正見本の割合	67%
D 1点当りの作成費用	41,324円
E 作成日数	9.2日

(2) 見本作成従事者について

企画スタッフ数	2.8人(兼務を含むと3.9人)
全就業者数(経営者も含む)	32.6人
企画スタッフの割合	8.6%(兼務を含むと12%)

(3) オリジナル商品の企画開発について

年間企画点数	18.6点
年間生産(受注)枚数	6,275枚

(4) 商品企画の将来展望について(複数回答あり)

A 現状維持、柔軟な態勢で望む。	2社
B 当座は現状維持であっても、提案型の商品企画を目指す。	9社
C オリジナル企画商品の販売を目指す。	9社
D 自社ブランドのアパレルを目指す。	1社

3-2 素材傾向

(1) 中心素材

使用素材をウェイト順に上位から3素材調査した結果、1位は羊毛、2位は綿、3位は毛*アクリル混紡糸、以下、獣毛、綿*アクリル、綿*麻各種長繊維であった。

(2) 新素材

抗ピル糸、シルケット糸、抗菌糸、防臭糸、はっすい糸、モール糸、スパンシルク、カラーネップ、ラメ糸、クリンプ糸、長繊維系、シルク系、絹*レーヨン、アクリル*レーヨン*絹、綿*アクリル、企業のノウハウもあり明快でないものもある。

(3) 異素材

ボア、各種織物生地、ジャージィ、ジョーゼット、フェルト、プリント生地。

3-3 色傾向

(1) グランドの色数(表3に示す)

表3 グランドの色数

色数	社	色数	社
2 ~ 5	1	4 ~ 6	5
3 ~ 4	1	4 ~ 7	1
3 ~ 6	1	4 ~ 8	1
3 ~ 8	1	5 ~ 7	1
3 ~ 9	2	5 ~ 8	1
3 ~ 10	1	6 ~ 7	1

(2) '91秋冬カラー(表4に示す)

'91秋冬カラーはオフホワイト、黒、紺、グリーン系、ピンク系、白、パープル等が中心カラーとして使用された。

表4 '91秋冬カラー

1位	社	2位	社	3位	社
オフホワイト	4	黒	5	黒	4
黒	3	パープル	3	紺	3
白	2	紺	2	グリーン	2
エスピック、ネイビー、ベル	各1	ブルー	2	ワイン	2
ーグリーン、グリーン、オレ		ベージュ、オフホワイト、ワ	各1	ピンク	2
ンジ、紺、ローズピンク、茶		イン、グレー		赤、ベージュ、白、オフホワイト	各1

(3) '91春夏カラー (表5に示す)

フホワイト, 白, ブルー, ベージュ等が中心カラー

'91春夏カラーは紺, ピンク, グリーン系, オ

として使用された.

表5 '91春夏カラー

1 位	社	2 位	社	3 位	社
紺	3	紺	4	ベージュ	2
ピンク	3	オフホワイト	2	オペラピンク, マリンブルー,	各1
グリーン	3	ベージュ	2	ピンク, ベールイエロー, パー	
白	3	クリーム	2	プル, ワイン, オフホワイト,	
ブルー, オフホワイト, キャ	各1	グリーン, ピンク, ネイビー,	各1	グリーン, ブルーグレー, ベ	
メル, ベージュ		ブルー, ワイン		ールグリーン, 黒	

(4) '92春夏カラー (表6に示す)

ブルー, ネイビー等が中心カラーとして使用され

'92春夏カラーはオフホワイト, ピンク, 紺,

ている.

表6 '92春夏カラー

1 位	社	2 位	社	3 位	社
ピンク	2	紺	3	オフホワイト	2
オフホワイト	2	オフホワイト	2	ピンク	2
白	2	ブルー, トップグレー, ピン	各1	アクアマリン, ネイビー,	各1
赤, ネイビー, ブルー, 紺	各1	ク, オレンジ, クリーム		カラシ, ブルー, サンドベ	
				ージュ, グリーン	

3-4 スタイルデザインの傾向

(1) セーター (表7に示す)

セーターのスタイルデザイン傾向は衿に特長があり, タートルネック, ハイネック, オフタート

ルが多く生産された. 他には, 身丈の長いセーター,

リブ編み (2*1, 3*2, 4*2) のポロセーター, 衿幅の広い丸首セーター, ロール衿やカシュクール等があげられる.

表7 セーターのデザイン

1 位	社	2 位	社	3 位	社
ハイネック	4	タートルネック	2	カシュクール	1
タートルネック	4	オフタートル	1	スーツ	1
ミラノリブスーツ	1	ハイネック	1	リブ(2*1, 3*2, 4*2)	1
オフタートル	1	カシュクール	1	衿先ロール	1
身丈が長め	1	2*1リブのポロ	1		
		アンサンブル	1		
		衿幅が広い	1		

(2) カーディガン (表8に示す)

カーディガンのスタイルデザインはV衿の浅いカーディガン, フード付きカーディガン, 丸首カー

ディガン等が多い。編み地は2*1リブ, ジャカード, 針柄等があり, 10~12ゲージ物はロング丈が多い。

表8 カーディガンのデザイン

1 位			2 位		
ベーシックカーディガン(丸首, V衿)	4社	フード付き	1社	ロール衿	1社
ボレロ風	2	カーディガンスーツ	1	リブ柄	1
身丈の長いカーディガン	2	ジャガード柄カーディガン	1	針柄衿	1
2*1リブカーディガン	1				

(3) ボトム (表9に示す)

ボトムのスタイルデザインは, 多品種化とミニの傾向にあり, 5種類のスカートと4種類のパンツに2分されている。多品種化の要素技術として,

ニット編み地の伸縮特性を制限したミラノリブ等の編み組織, 熱可塑性を応用した高温処理等による編み地設計や仕上げ加工の工夫があげられる。

表9 ボトムのデザイン

1 位	社	2 位	社	3 位	社
タイトスカート	2	キュロットスカート	2	プリーツスカート	1
ミニタイトスカート	2	ミニタイトスカート	1	2*1, 3*2, 4*2リブスカート	1
2*1リブスカート	1	ショートパンツ	1		
プリーツミニスカート	1	2*1リブパンツ(ロング)	1		
ロングパンツ	1	フレアーパンツ	1		
スパッツ (パンツ)	1				
その他	1				

3-5 編み地の傾向

(1) 編み機のゲージ別使用頻度 (表10に示す)

表10 編み機のゲージ別使用頻度

1 位	社	2 位	社	3 位	社
12ゲージ	8	14ゲージ	4	5ゲージ	4
7	3	5	3	7	4
14	3	10	3	10	2
10	2	7	2	3	1
12~14	1	8	2	7~8	1
		14	2	8	1
				12	1
				10~14	1

(2) 柄傾向

ニットの柄デザインには, 地糸の編み組織による無地柄(針柄)の系統のものと, 2色以上の色糸を用いて色柄を表現する先染め柄がある。さらに, 生成りの編み地にプリント加工するプリント柄の3種類がある。この項目では, これら3種類全ての柄の傾向を表11に示す。

編み地の傾向として使用頻度の高いゲージは12ゲージを中心に7ゲージ, 14ゲージ, 10ゲージがあげられる。

柄の傾向についてデザイン的にはジャカード柄が多く, シングル・ジャカード柄とダブル・ジャカード柄共に多い。柄構成はアーガイル柄や自由

な柄をパネル式に表現する幾何学的模様、植物で 風景柄も用いられている。
は各種花柄、動物では猫・豹柄が多く、一部には

表11 柄 の 傾 向

1 位	社	2 位	社	3 位	社
ジャカード柄	7	リンクス柄	1	モアイ柄	1
幾何柄	4	チェック柄	1	ボーダー柄	1
千鳥柄	1	ロゴ柄	1		
ボーダー柄	1	多配色柄	1		
ダイヤ柄	1	風景柄	1		
地柄	1	動物柄	1		
アラン柄	1	花柄	1		
無地柄	1				

(3) 針 柄

上記(2)の3種類の柄の中で針柄を表12に示す。
地糸の編み方の変化によって様々な立体柄を表現する、いわゆる無地柄の系統の針柄については、アラン柄、目移しケーブル柄、レーシー柄等が多い。レーシー柄は平編みやリブ編みでタック編み

の積み重ねと配列変化によって、隆起とメッシュ効果を表すラーベン柄と、同様に目移しの操作によって編み地にメッシュを作り、これをデザイン的に連続に配列させたレーシー柄の2種類が多く用いられていた。

表12 針 柄

1 位	社	2 位	社	3 位	社
アラン柄	4	ゴム地	3	縄柄	2
縄柄	3	縄柄	2	メッシュ柄	1
目移し柄	2	メッシュ柄	2		
レース柄	2	リブ	1		
ミラノリブ	1	ピンタック	1		
リブ	1	針抜き柄	1		
無地柄	1	無地柄	1		

3-6 アパレル用コンピュータ機器名

(1) コンピュータグラフィックスシステム

- SDS 380(株島精機製作所) 1台
- SDS 500(") 1台
- SDS 1000(") 1台

(2) パターン・グレーディング・マーキングシステム

- PGM-2(株島精機製作所) 3台

(3) 編み機専用柄出しシステム

- マイクロSDS(株島精機製作所) 13台
- 三星システム(株三星製作所) 1台
- 三共システム(尙三共メリヤス機械製作所) 1台

3-7 考 察

見本作成に関する基本調査の結果から、全社的な視点で検討するために、生産概況調査より調査企業17社の年間生産額と生産枚数を抽出して、いくつかの分析を1社当りの平均値により試みた。

1社当りの平均生産額	4億126万円
1社当りの平均生産枚数	92,694枚
1枚当り平均単価	4,329円

- (1) 見本の中率=年間生産(受注)点数/年間総点数=544/698=77.9%

見本の中率は約78%と、かなり高い結果である。見本作成点数の多い企業が的中率も高くなっている。

- (2) 年間見本作成費用=年間総点数×1点当りの作成費用=698×41,324=28,844,152円

生産額に占める見本作成費比率=見本作成費用/生産額=28,844,152/40,126万円=7.2%

総生産額に占める見本作成費比率が7.2%金額で約2,884万円はニット企業負担で取引先のアパレルや商社等は一切負担していない。つまり、このリスクは経営を圧迫することになる。

- (3) オリジナル商品企画率=オリジナル点数/年間総点数=18.6/698=2.7%

オリジナル商品生産比率=オリジナル枚数/総生産枚数=6,275/92,694=6.8%

オリジナル商品企画率は全体で2.7%と少ないが、生産比率では6.8%と若干ではあるが多くなっている。

- (4) 商品企画の将来展望は、意欲的な企業が多く提案型の商品企画を実践し、オリジナル商品の販売を目指す傾向にある。

- (5) 秋冬用素材は毛関連が多く、羊毛を中心に獣毛混もあり、アクリルは毛と混紡(各種混率)されて用いられている。

春夏用素材は綿素材が中心で、単独で用いられるケースが多く、続いて綿*アクリル、綿*麻の混紡糸と長繊維等が用いられている。

- (6) 付属品については、貝・金属ボタン、ファスナー、肩パット、ペチコート、ブレード、グログランテープ、フェイクファー、芯地、裏地、アクセサリ等が用いられている。

- (7) ブランドについては、調査企業1社当り5ブランドまでとしたが、回答企業14社の結果は50ブランドに渡り全ての企業で異なっていた。

4. まとめ

県内ニット企業の商品企画開発機能を充実する為には、現状のアパレルメーカー追随型の受注生産方式を、いつまでも踏襲しては将来は暗い。

このような環境下においても、ニット企業独自の技術ノウハウを加味した提案型の見本作成を実践し展開することが重要である。

更にオリジナル商品の企画販売を目指すための需要に対応し得る事を目的に、今年度は各企業の実態について調査・分析を行った。

- (1) 見本作成した製品の受注割合(的中率)は78%と予想より高い推移であった。この要因について再度、数社に問い正したところ大手アパレルとの取引だけでなく、シーズンに先駆けて素材の手当をしておき、ファーストサンプルの確認によって編成に入る、小売チェーン店や中堅のマンション問屋との取引によるものであることが判明した。

- (2) 見本作成に要する年間費用は、1社平均生産額4億円強に対して2,900万円弱になり比率的には7.2%であった。自社のオリジナル商品企画開発費用として7.2%を投資するとしたら、相当の成果が期待できると考えられる。しかし、アパレルの見本作成のためなら高い負担である。

- (3) オリジナル商品企画率は2.7%、オリジナル商品生産比率は6.8%であったが、今後はこの比率を更に高め、高付加価値生産性を目指したい。また、オリジナル商品の販売方法は今回の調査にはないが、聞き取り中に判明した傾向として中小のアパレル、商社、直販、訪販、通販、TVショッピング、アンテナショップ等、多岐に渡っている。

- (4) 商品企画の将来展望は意欲的な企業が多く、当座は柔軟な提案型の商品企画を実践し、オリジナル企画商品を目指す傾向にある。

- (5) 秋冬素材は毛系統、春夏素材は綿系統が中心で使用素材の範囲は比較的狭い。これは毛*アクリル混紡糸を中心素材として、子供ニット産地を長年形成してきた本県では、婦人ニットの歴史も浅く産地としての素材に関する紡糸・紡績段階における各種加工糸の情報や知識、また、紡績メーカー、糸商等に関連した基盤が他産地に比較して弱いといえる。

- (6) '91秋冬、'91春夏、'92春夏の3シーズンの色傾向は、共通色にオフホワイト、紺、ピンク系、次にグリーン系、白があげられる。色柄デザインは消費者の購入動機としてニット商品(衣料品)にとって重要な要素であり、スタイルデザ

- イン・素材等に優るものである。つまり、オリジナル企画商品を目指すためには、色柄デザインが決め手になるといっても過言ではない。
- (7) セーター、カーディガン、ボトムのアイテム別のスタイルデザインの傾向について、セーターはロール衿やカシュクール等の衿にポイントがあり、カーディガンは編み地の多様化によるロング丈の傾向。また、ボトムは多品種化とミニの傾向にあり、その種類はスカートとパンツで9アイテムを数え、更に着用条件の厳しさから、伸縮性の少ない編み組織や熱処理による加工が施されている。
- (8) 編み地の傾向として12ゲージ・14ゲージ・7ゲージを中心ゲージにジャカード柄・幾何学柄・動植物柄・アラン柄・レーシー柄等が多く用いられた。

なお、今年度の調査結果に基づいて、新設された機器を用い、商品企画機能の向上支援のために素材・配色・組織柄等の諸条件を検討し、編み地見本の開発研究を始め、見本指示書のデザイン画を基にサイズ寸法及び編み組織特性を検討し、アパレルCADを用いてパターン（型紙）の開発研究を図っていきたい。

文 献

- 1) 山梨県ニット生産概況調査（平成3年版）
- 2) 伊藤英三朗：現在ニット教本 1. 技術編
- 3) 伊藤英三朗：現在ニット教本 2. デザイン編
- 4) 井上 孝：現代繊維辞典（株）センイ・ジャーナル（1968）
- 5) 田中千代：服飾辞典 同文書院（1988）